

## ユーキャンの気象予報士これだけ！一問一答&要点まとめ 第4版

### 訂正のお知らせとお詫び

この度は、弊社書籍をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

本書の記述内容に以下のような訂正事項がございました。お詫びして訂正申し上げます。

なお、発行年月日により対象となる訂正箇所が異なる場合がございますので、お手元の書籍の奥付で発行年月日をご確認のうえ、ご訂正くださいますようお願ひいたします。

#### ■ 「第4版 第1刷（2024年3月22日）」をお持ちの方

該当頁	該当箇所	訂正前	訂正後	訂正日
p.45	学科・一般 第2章 重要用語 再確認 <b>仮温度</b> [K] 2~3行目	仮温度をTv、混合比をw、 <u>乾燥</u> 空気の温度をTと～	仮温度をTv、混合比をw、 <u>湿潤</u> 空気の温度をTと～	2025.10.3
p.151	学科・一般 第8章 A264 解説文 (*解答は「×」のまま変更なし)	<u>現象の予想の方法の変更は、</u> <u>変更の事由発生後、遅滞なく</u> <u>気象庁長官に報告書を提出し</u> <u>なければならないが、その期限が決められているわけでは</u> <u>ない。</u> (則50条2項)	<u>予報業務の許可を受けた者が</u> <u>現象の予報の方法を変更する</u> <u>場合には、変更予定日の30</u> <u>日前までに報告書を、気象庁</u> <u>長官に提出しなければならない。</u> (則50条2項)	2025.7.11
p.329	学科・専門 第9章 A623 下から1行目	～と空振り率を同時に高める ことは困難である	～と空振り率に関する予報精度を同時に高めることは困難である	2024.10.25
p.30	学科・一般 第2章 Q43 1行目	空気塊が <u>断熱的</u> な～	空気塊が <u>乾燥断熱的</u> な～	2024.10.11
p.358	実技試験 A14 <b>解答例</b>	<u>大雨域の風下側で湿潤域と強風域の位置がほぼ一致している</u> (27文字)	<u>大雨域は風下側に位置し湿潤域と強風域の位置がほぼ一致している</u> (30文字)	2024.8.23
p.358	実技試験 A14 <b>解説</b> 3行目	また、 <u>強風域は大雨域の風下側</u> に位置しており、～	また、 <u>大雨域は強風域の風下側</u> に位置しており、～	2024.8.23
p.23	学科・一般 第2章 A024 解説	2つの等圧面間の高度差を <u>層圧</u> (シネックス)という。	2つの等圧面間の高度差を <u>層圧</u> (シックネス)という。	2024.6.21
p.44	学科・一般 第2章 重要ポイントまとめ Check Point3 気圧と層厚□層厚 3行目	・2つの等圧面の高度差を <u>層圧</u> (シネックス)といい、	・2つの等圧面の高度差を <u>層圧</u> (シックネス)といい、	2024.6.21

該当頁	該當箇所	訂正前	訂正後	訂正日
p.314	学科・専門 第7章 表の1段目 記録的短時間大雨情報	大雨による災害発生の危険度 が <u>急激に</u> 高まっている中で、 線状の降水帯により非常に激 しい雨が同じ場所で降り続い ている状況を <u>線状降水帯</u> とい うキーワードを使って解説す る情報。	<u>数年に一度</u> しか起こらないよ うな <u>記録的な短時間の大</u> 雨を 観測し、より一層の警戒を呼 び掛けるときに発表する情 報。	2024.5.31
p.314	学科・専門 第7章 表の2段目 顕著な大雨に関する気 象情報	<u>数年に一度</u> しか起こらないよ うな <u>記録的な短時間の大</u> 雨を 観測し、より一層の警戒を呼 び掛けるときに発表する情 報。	<u>数年に一度</u> しか起こらないよ うな <u>記録的な短時間の大</u> 雨を 観測し、より一層の警戒を呼 び掛けるときに発表する情 報。	2024.5.31
p.99	学科・一般 第5章 A157 解答	○	×	2024.5.17

### ■ 「第4版 第2刷（2025年2月1日）」をお持ちの方

該当頁	該當箇所	訂正前	訂正後	訂正日
p.45	学科・一般 第2章 重要用語 再確認 <u>仮温度</u> [K] 2~3行目	仮温度を $T_v$ 、混合比を $w$ 、 <u>乾燥空気の温度を <math>T</math> と～</u>	仮温度を $T_v$ 、混合比を $w$ 、 <u>湿潤空気の温度を <math>T</math> と～</u>	2025.10.3
p.151	学科・一般 第8章 A264 解説文 (*解答は「×」のま ま変更なし)	<u>現象の予想の方法の変更は、</u> <u>変更の事由発生後、遅滞なく</u> <u>気象庁長官に報告書を提出し</u> <u>なければならないが、その期</u> <u>限が決められているわけでは</u> <u>ない。</u> (則 50条2項)	予報業務の許可を受けた者が <u>現象の予報の方法を変更する</u> 場合には、 <u>変更予定日の30</u> <u>日前までに報告書を、気象庁</u> 長官に提出しなければなら ない。(則 50条2項)	2025.7.11

以下の記述は必ずしも誤りではありませんが、条件により異なるため、お読み替えをお願いいた  
します。

### ■ 「第4版 第1刷（2024年3月22日）」をお持ちの方

該当頁	該當箇所	訂正前	訂正後	訂正日
p.253	学科・専門 第3章 A482 解説	オホーツク海高気圧は、～發 生する <u>背の高い</u> 停滞性の～	オホーツク海高気圧は、～發 生する停滞性の～	2024.6.21